

練習問題 ● 文学的文章(1)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いよいよ学校へ出た。初めて教場へ入って高い所へ乗った時、なんだか変だった。^{注1}講釈をしながら、^①おれでも先生が勤まるのかと思った。生徒はやかましい。時々ずぬけた大きな声で先生と言う。先生にはこたえた。今まで物理学校で毎日先生先生と呼びつけていたが、先生と呼ぶのと、呼ばれるのは雲泥の差だ。なんだか足の裏がむずむずする。^②おれはひきょうな人間ではない、臆病な男でもないが、惜しいことに胆力が欠けている。先生と大きな声をされると、腹の減った時に丸の内^{注3}で午砲を聞いたような気がする。最初の一時間はなんだかいいかげんにやってしまった。^④しかしべつだん困った10質問もかけられずにすんだ。控所へ帰って来たたら、山嵐がどうだいと聞いた。うんと簡単に返事をしたら山嵐は安心したらしかった。

二時間目に白墨を持って控所を出た時にはなんだか敵地へ乗り込むような気がした。教場へ出ると今度の組はまえより大きなやつばかりである。おれは江戸っ子できゃしゃに小作りにできているから、どうも高い所へ上がっても押しがきかない。けんかなら相撲取りとでもやってみせるが、こんな大僧を四十人も前へ並べて、^⑤ただ一枚の舌をたたいて恐縮させる手際はな。しかしこんな田舎者に弱味を見せると癖にな

20

ると思ったから、なるべく大きな声をして、少々巻き舌で講釈してやった。最初のうちは、生徒も ぼんやりしていたから、それみろとますます得意になって、べらんめい調を用いたら、いちばん前の列のまん中にいた、いちばん強そうなやつが、いきなり起立して先生と言う。それ来たと思いなから、なんだと聞いたたら、「あまり早くてわからんけれ、もちと、ゆるゆるやって、おくれんかな、もし」と言った。おくれんかな、もしはなまぬるい言葉だ。早すぎるなら、ゆっくり言ってやるが、おれは江戸っ子だから君らの言葉は使えない、わからなければ、わかるまで待ってるがいいと答えてやった。

(夏目漱石『坊っちゃん』)

30

注1 講釈 文章の意味を説明してきかせること。

2 胆力 物に動じない気力。

3 午砲 正午を知らせるために鳴らす空砲。

4 べらんめい調 江戸の下町で、特に職人たちの間で使われていた荒々しい言葉づかい。

問一 この文章の場面を説明した次の〔 〕にあてはまること

とばを書きなさい。

が初めて

ときのこと

問二 — 線① 「おれでも先生が勤まるのかと思った」にこ

められた気持ちとして、もつとも適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 自信 イ 不安 ウ 安心 エ 恐怖きょうふ

問三 — 線② 「雲泥の差」と似た意味のことばとして、も

つとも適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア ねこに小判 イ 月とすっぱん
ウ もちはもち屋 エ 青菜に塩

問四 — 線③ 「おれはひきょうな人間ではない、臆病な男

でもない」とありますが、この部分の表現を次のように言いかえるとき、□にあてはまる漢字二字を書きなさい。

おれは、正々 とした男である。

問五 — 線④ 「しかしべつだん困った質問もかけられず

すんだ」とありますが、その時の気持ちとしてもつとも適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア ゆううつな気持ち イ 残念な気持ち
ウ ほっとした気持ち エ うれしい気持ち

問六 — 線⑤ 「ただ一枚の舌をたたいて恐縮させる手際は

ない」とありますが、「おれ」はどんな話し方で授業をしましたか。

問七 にあてはまることばとしてもつとも適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 斜はすにかまえて イ 感心しきりで
ウ あきれ果てて エ 煙けむにまかれて

問八 — 線⑥ 「もちつと、ゆるゆるやって、おくれんかな、

もし」と言われたときの「おれ」の気持ちとしてもつとも適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 先生の講釈に文句を言うとはなまいきだ。
イ 初めての授業でうまくできないのが残念だ。
ウ 体が大きくて強そうなやつだからおそろしい。
エ 案外おっとりしたやつだったから安心した。

問九 「おれ」についての説明として、適当なものに○、ちが

うものに×をつけなさい。

- (1) あまり細かいところまで気を回さない。
(2) 非常におどおどしている小心者である。
(3) 相手の状況や立場を思いやることができる。
(4) 短気で、すぐ暴力をふるう。
(5) 事前によく調べてから物事にあたる。
(6) 常にせいっぱい、物事にぶつかっていく。

- (1) () (2) () (3) ()
(4) () (5) () (6) ()

練習問題 ● 詩・短歌・俳句

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

からたちの花

北原白秋

からたちの花が咲いたよ。

白い白い花が咲いたよ。

からたちのとげはいたいたいよ。

青い青い針のとげだよ。

からたちは畑の垣根よ。

いつもいつもとおる道だよ。

からたちも秋はみのるよ。

まろいまろい金のたまだよ。

からたちのそばで泣いたよ。

みんなみんなやさしかったよ。

からたちの花が咲いたよ。

白い白い花が咲いたよ。

問一 この詩の種類としてもっとも適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 口語自由詩 イ 口語定型詩

ウ 文語自由詩 エ 文語定型詩 ()

問二 各行末が「よ」で終わっています。この表現はこの詩にどんな効果を与えていますか。もっとも適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 情感を深める。 イ 断定的な印象を与える。

ウ テンポを速める。 エ 意味を強める。 ()

問三 「からたち」とはどんな植物ですか。次の a、b、c、d において、はまることばを詩の中から書きぬきなさい。

春に a 花が咲き、緑のするどい b がある。道と畑との c として植えられる。実は d にみえる。

a _____ b _____

c _____ d _____

問四 少年時代の思い出を表現した連はどこですか。二行を書きぬきなさい。
